

335 エックス線作業主任者試験 重要問題集 正誤表

誠に申し訳ございませんが、下記の通り訂正させていただきます。 (R4. 1月12日 更新)

P43 問題4 (3) 2行目：最も高い。 ⇒ 最も低い。

解説 (3) : $\overset{\text{鉄}}{\text{Fe}}29\%$, $\overset{\text{ニッケル}}{\text{Ni}}17\%$, $\overset{\text{コバルト}}{\text{Co}}54\%$ ⇒ $\overset{\text{鉄}}{\text{Fe}}54\%$, $\overset{\text{ニッケル}}{\text{Ni}}29\%$, $\overset{\text{コバルト}}{\text{Co}}17\%$

P51 問題2 解説 2行目：60mSv/h ⇒ 30mSv/h

11行目：60×exp ⇒ 30×exp

13行目：60×{exp ⇒ 30×{exp

17～18行目：次式に訂正いたします

$$I = 30 \times (1/50)^2 = 30 \div 2500 \text{mSv/h} = (30 \times 4) \div (2500 \times 4) \text{mSv/h} \\ = 120 \times 10^{-4} = 12 \times 10^{-3} \text{mSv/h} = 12 \mu\text{Sv/h}$$

正解：(5) ⇒ (2)

P60 問題8 設問 7行目：90mm ⇒ 140mm

P67 問題5 (1) 1行目：1g中 ⇒ 1kg中

P69 c) 実用量 の5～7行目：1cm線量当量は実効線量の評価および皮膚の等価線量の評価に、70μm線量当量は皮膚以外の等価線量の評価に用いられます。(下線部分を削除します)

⇒ 1cm線量当量は実効線量の評価に、70μm線量当量は皮膚の等価線量の評価に用いられます。

P69 (3) の解説 1～3行目：1cm線量当量は実効線量の評価および皮膚の等価線量の評価に、70μm線量当量は皮膚以外の等価線量の評価に用いられます。(下線部分を削除します)

⇒ 1cm線量当量は実効線量の評価に、70μm線量当量は皮膚の等価線量の評価に用いられます。

P71 問題7 解説(5)の2行目： $\text{m}^2 \cdot \text{s}^{-1}$ ⇒ $\text{m}^2 \cdot \text{s}^{-2}$

P94 問題8 解説の2行目以降を下記のように訂正いたします

60線源から1mの距離における線量率が30μGy/hであることから、 $7.4 \times 10^7 \text{Bq}$ の線源の場合には60μGy/hになります。この線源でフルスケールに振れるまで20分かかったのですから、次のような計算となります。

$$60 \mu\text{Gy/h} \times \frac{20 \text{ min}}{60 \text{ min/h}} = 20 \mu\text{Gy}$$

正解 (2)

P125 問題5 解説の(4) 2行目：細胞分裂期です。

⇒ 細胞分裂期初期です。それに次いでDNA合成期にも感受性の高い時期があります。

P181 2行目：「ヘマトクリット値の検査」 ⇒ 「ヘマトクリット値の検査以外のもの」

P207 問題34 (4) 1行目：細胞分裂期 ⇒ 細胞分裂期後期

P209 問題40 (4) : 発生率は増加するものの、障害の重篤度は変化しない。

⇒ 発生率は増加し、障害の重篤度も増大する。

P210 問題19 解答：(3) ⇒ (4)

P216 問題19 解説の1行目：(3)の12ヶ月以内 ⇒ (4)の12ヶ月以内

正解：(3) ⇒ (4)

P222 問題 34 解説の(4) 2行目：細胞分裂期 ⇒ 細胞分裂期初期

P224 問題 40 解説の(4)上から2行目：重篤度も線量増大によって増加します。

⇒ 重篤度は変化しません。